

新除草・調節剤

タチカレン液剤

ヒドロキシイソキサゾール

(取扱メーカー) 三共株式会社

対象作物：水稻箱育苗（ムレ苗防止，苗の老化防止）

性状・作用特性：本剤は三共で開発された，3-ヒドロキシ-5-メチルイソオキサゾール30%を含む黄褐色液体である。

本剤は水稻の苗立枯病防除剤として既に登録されているが，水稻の初期生育に生理的影響を及ぼすことが明らかにされた。箱育苗の播種時土壌処理で稲の生理障害であるムレ苗を予防し，苗の老化現象である根の褐変を防ぎ，白く，呼吸活性が高い根を保持し，新根の発根力も高い

苗を得られる。したがって，稚苗移植栽培で適期に移植した場合には本田での活着，初期生育を良好にする。又，やむをえず移植日を遅くする場合，老化による苗質低下の防止に役立つ。

毒性：人畜毒性は急性，慢性毒性試験の結果極めて低毒性であり，魚毒性もAにランクされる。また，土壌中では微生物により分解され，蓄積されない。

使用方法：本剤を500～1000倍の水に稀釈し，播種覆土後，箱当たり500ccを灌注する。

使用上の注意：生育調節剤として使用する場合，実用化されている地帯は，寒地および寒冷地。土壌を使用する育苗で使用すること。立枯病激発条件下では上記の処理をした後，出芽後にも同様の処理をすると立枯病防除効果が高い。

編集後記

冬も終わり春を迎える月，暦をめくると，節分，立春，雨水と，暖かき春の訪れを知らせてくれる。

冬雑草，ことにキク科の雑草も，この頃になると急に目立ってくる。小さなヨモギの中に混って，公害雑草とさわがれたブタクサ，セイタカアワダチソウなども，大分生長してきた。冬雑草の防除をめぐり，夏雑草の防除と関連して，種々議論されてきたが，今後の雑草防除の方法も変わってくるに違いない。

さて，本号では，稲作転換の現状と諸問題について，実務的立場から埼玉県農業試験場の伊佐山部長にご執筆をいただき，巻頭をかざらせていただいた。農林省の方針と転換作農家の実

態をよくとらえており，今後の農家が畑作物を水田に導入するにあたっての，貴重なるアドバイスと技術的資料である。

本誌愛読者各位よりも，ぜひ，これらの問題について，ご寄稿をお願いしたい。

財団法人 日本植物調節剤研究協会

東京都港区芝西久保桜川町26番地

東話 東京(03)502-4188(代)

昭和47年2月発行

第5巻第11号

¥70(送料35)

編集人 日本植物調節剤研究協会常務理事 吉沢長人

発行人 植調編集印刷事務所 広田伸七

東京都港区芝愛宕町1-3 全国農村教育協会内

発行所 植調編集印刷事務所

電話 東京(03)436-3388番